

【質疑応答要旨】

【記者】 新年度予算案の件で、端的に、どんな思いを込めたか。

【市】 まちづくり推進計画の策定に伴い、3つの都市ヴィジョンを「こども夢・チャレンジNo.1都市」、「健康・支え合い循環都市」、「魅力・活力創造都市」に文言を整理した。「誰一人取り残さない」より良い小牧のために、これまで準備を進めてきた新図書館、(仮称)こども未来館、駅前整備などの一定の完成の中で、これを土台として、次のステップにつなげていかなければならないと思っている。

【記者】 中部フィルハーモニー交響楽団補助事業について、新規事業とのことだが、これまで補助はなかったのか。

【市】 これまでは会費の支払いや定期演奏会の際の間接的な補助を行っていたが、中部フィルハーモニー交響楽団の経営が厳しい中で、本格的な経営支援を行うものである。

【記者】 活力ある高齢化社会と、若年世代の定住促進に関して特にこれはという事業があるか。

【市】 地域協議会設立推進・活動支援事業、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業、子育て世代包括支援センター運営事業、(仮称)こども未来館施設整備事業、小牧駅周辺整備事業、図書館施設建設事業などである。

【記者】 繰入金額を引いた財政調整基金の残額はどれぐらいになるか。

【市】 令和元年度末の基金総額の見込みで、66億5,900万円余であるため、令和2年度の当初予算を組むと、今回、財調の取り崩しを予算で見ているのが19億円であるため、47億6,400万円余である。ただし、例年予算で見込んだ取り崩し額は決算の段階で取り崩さずに済んでいるため、令和元年度末の基金総額は71億円程度になる見込みである。

【記者】 市債がかなり大きくなっているが、これまで前年度比420%に増えたということはあったか。

【市】 一般会計でいうと、建設事業が多かった年度には30億を超えており、市債額は今回が最大ではない。将来利用する方との負担の平準化ということを目的にしているため、大きなものをつくれば、そのときに市債を立てるということは当然必要なことだと考えている。

【記者】 一般会計の額が過去最大とあったが、これは現市政が始まって最大なのか、小牧市の歴史を見て最大なのか。

【市】 市制はじまって以来、最大である。